

退職の挨拶

中村 大輔

(元スポーツウエルネス学科教員)

立教大学の皆さん、こんにちは。新型コロナウイルスの影響でこれまでとは少し違った日々を過ごされていることと思います。このウィルスは、人々の健康を奪うだけでなく、私達の日常にも大きな変化をもたらしています。例えば、これまで当たり前のように行われていた対面での授業が制限されるだけでなく、学校で友人とあうことさえ禁じられるような状況にもなりました。これまでの日常が急激に変化することに対して対応を行うことは大きなストレスが伴っていることと思います。私は立教大学を退職し、今年の4月からいわゆる一般企業、会社員として働いています。実際には新入社員ではなく2年目なのですが、私が務めている企業でもこのウィルスの影響によって働き方に大きな変化が見られるのですが、いわゆるリモートでの会議はずっと前から行われていた（ストーリーミングの配信含む）ので、その点に関してはなんら変化というか問題がないとの認識です。もちろん、それが主流というわけではないのですが…

私が一般企業で働いているのには理由があります。私は大学院を修了してからこれまで、一般企業で働いたことがありませんでした。大学で授業を行うようになって、いつも思っていたことは、大学の教員なのに大学生が卒業後に籍を移す企業での経験がなくて、本当に良いのだろうか？ということです。“社会に出たら～”とか“民間の企業では～”という言葉は良く耳にしますが、その点に関して、私なりの視点からの教育が大学生に対して出来ていないということは、ずっと気に掛かっていました。もちろん、大学は高度な専門知識を学ぶところなので、その点については貢献出来ていると思うのですが、実際には多くの学生の皆さんは、一般企業に務めたら運動生理学や運動処方を行うことはないですもんね。

でも最近、このような考えがあまり正しくなかったのではないかと考えています。その理由は、社会人として会社の利益や企業の発展に貢献できるかどうかを考えたときに、重要なことは、知識があること、方向性や回答を論理的に導きだせること、そして柔軟な対応をできることだと、改めて改めてこの1年半の業務の中で理解したからです。クライアントに仕事の提案をする際には、相手の業

種に対する知識、問題点への理解、そしてそれを協力して解決するための論理的な手順の提案、そのプロジェクトに対する自社内での推進計画における効果の見直しなど、どんな場面でも、大学での学びは大きな力を発揮してくれます。もちろん乳酸や最大酸素摂取量や栄養そのものが役に立つことは少ないのですが、自分が興味を持った学問について学ぶ、そしてその学問がどのような背景（実験から得られたエビデンス）から現在の理解に至っているのか、そして分かっていることは何か？授業の中で行われる学びには、実際の企業での活動の基本となることが凝縮されてつまっているのです。そして、対面やオンラインという授業の形態はそこにはあまり関係がないのではないかと思います。なぜなら、学ぶという行為は個人の行動によるところが非常に大きいからです。

私は、リモートやオンラインでの授業の開催に賛成してはおりません。できるなら、対面で行う方がいいと考えています。対面で授業に参加することができれば、授業以外の場面でも友人や先生とコミュニケーションを取るなどの付加的な価値もたくさん望めるからです。しかし学びだけに限っていうと、私はそれほど悲観的になる必要はないのではないかと思います。むしろ、一般企業においてはこの状況が落ち着いても、リモートでの仕事は減らないと思います。そして会社に行って仕事を行うという時間の過ごし方自体も今後大きく減少すると思います。そのような環境では、自身で学び、物事を進めていける力が非常に大切です。そしてそれを短時間で画面越しに説明する能力も、今まで以上に求められます。このいずれにおいても、現在の大学の授業で完全に奪われているわけではないと思います。みなさんは、今後の社会生活で求められるスキルを大学で実践している1期生です！これまでの卒業生で、今行われているような授業を経験した人はほとんどいないのではないのでしょうか？新しいことの連続で多くの面で苦労が多く大変だと思います。でも悪いことばかりではありません。学生の皆さんにはこの状況を是非プラスに捉え、今まで以上に実りある大学生活を送って欲しいと思います。今の授業形態は、卒業後の社会生活を行う上でも必ず行われます。社会にでる前に、企業で当たりまえのように行われている業務のすすめ方（オンライン会議やリモートワーク）を経験できることは絶対にプラスに働きます！そして何より、みなさんは仮に会社に出社することになっても、そこに違和感はないのではないのでしょうか。実はこの2つの考えを合わせ持つ柔軟性を育む機会を与えてくれたことこそが、コロナがみなさんに与えてくれた最大の恩恵だと思います！

末尾になりますが、在職期間中は大変お世話になりました。先生方、学生の皆

さん、そして職員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後の皆様の益々
のご健勝とご多幸をお祈りいたします。